



であなたの手元に届くwebマガジン

# おばこ稲作情報



2021年6月 No.9

JA秋田おばこ

# 生育確認し

# 中干し時期判断を

昨年は長雨によって十分な中干しが出来なかったため、根の下方への伸長が少なく倒伏の原因の一つになってしまい、改めて中干しの意義を考えさせられました。中干しは秋作業のためにただ田面を乾かすだけではなく、様々な効果があります。

ここ最近の高温で生育の遅れはほぼ取り戻していると思われていますので、時期になったら行わなければなりません。近年は疎植傾向のため、 $m^2$ 当たりの茎数を参考にしながらも、一株当たりの茎数を確認して中干しの判断をしてください。中干し後も7月上旬にかけて分けつは増えていくので「少ないかな」と思っているも早めに、余裕を持って中干しに取り掛かりましょう！



## 中干しの効果



- 土中の有害ガスを抜く
- 土中に新鮮な空気を供給
- 根を下方に伸長
- 田面硬化により秋作業容易に
- 無効分けつ抑制
- 生殖生長への切り替え
- 受光体勢向上

LINE公式アカウント  
「@ja-obako」で検索  
稲作情報発信中！



6/21頃

## 目標茎数の8割(277本/ $m^2$ )の目安

栽植密度	株あたり茎数
70株	13本
60株	15本
50株	18本

277本/ $m^2$ 以上  
確保している

直ちに深水管理。その後、中干しを行う。

277本/ $m^2$ 未満  
である

有効茎確保後、6月末には中干しを開始。

6月21日頃に一度生育調査を行い、あきたこまち有効茎決定期の目標茎数346本/ $m^2$ の8割を確保していたら深水管理を行い、中干しを行います。また、中干し時期が年々遅くなっており、水が欲しい幼穂形成期でも落水しているほ場があります。中干し期間は梅雨時期と重なり、乾きにくいことが多いので、期間に余裕を持って行いましょう。

## 中干し 実施の目安

